

日本泌尿器科学会甲信越合同学術大会

(第 186 回信州地方会・第 92 回山梨地方会・第 378 回新潟地方会)

《 プログラム・抄録集 》

日 時：平成 28 年 6 月 11 日（土）午後 14 時 00 分

会 場：パストラル長岡

長岡市今朝白 2 丁目 7 番 25 号 TEL 0258-35-1305

参加費：3,000 円

- ※ 参加受付は、13 時 15 分～
- ※ PC 受付は、13 時 30 分～
- ※ 口演時間は、1 題 7 分。討論 3 分
(発表は PC のみです)

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい。

951-8510 新潟市中央区旭町通 1 の 757

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL : 025 (227) 2289 / FAX : 025 (227) 0784

会長 富田 善彦

14 : 00 ~ 14 : 05

開会の挨拶

14 : 05 ~ 14 : 55

座長 澤田 智史 (山梨大学)

1. 選択的動脈塞栓術にて機能を温存し得た非虚血性 (High-flow type) 持続勃起症の1例

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科¹⁾、新潟大学医歯学総合病院 放射線科²⁾
渡邊和博¹⁾、瀧澤逸大¹⁾、丸山 亮¹⁾、笠原 隆¹⁾、原 昇¹⁾、高野 徹²⁾、富田善彦¹⁾

持続勃起症は虚血性 (静脈性 : Low-flow type) と非虚血性 (動脈性 : High-flow type) に分類され、治療法が異なる。非虚血性持続勃起症の1例を経験したので報告する。症例は19歳男性、スキー中転倒し、外陰部を叩打、持続勃起状態となり関連施設を経て当科を受診した。海綿体血液ガス分析と造影CTにて非虚血性と診断され経過観察されるも改善なく、選択的動脈塞栓術を施行された。責任動脈の一部の塞栓ができなかったが、術後1病日より症状改善、術後8週で消失し、性機能も受傷前と同等であった。

2. 後腹膜滑膜肉腫術後再発に対しAI療法が奏効した1例

信州大学
松高 淳、齊藤徹一、道面尚久、皆川倫範、小川輝之、石塚 修

症例は42歳男性。2014年12月にCTにて巨大左腎腫瘍を認め、左腎摘出術を施行した。標本は1.8Kg、術後組織診断で後腹膜滑膜肉腫と診断された。2015年3月にCTにて局所再発を認めた。局所再発から脾臓浸潤を来とし、脾臓出血を発症したため、経皮的脾動脈塞栓術を施行した。状態改善後AI療法7コースを施行し、奏功を得た。PET検査でも再発所見を認めなかった。集学的治療が奏効した症例を経験したので、文献的考察を加え報告する。

3. 腎原発神経内分泌腫瘍の一例

山梨大学
三竹結、山岸敬、大竹裕子、神家満学、三井貴彦、座光寺秀典、武田正之

症例は43歳、女性。検診超音波検査で左腎腫瘍が疑われ、近医を受診した。腹部CTにて左腎嚢胞壁に造影効果のある腫瘤を認め当科へ紹介された。当科ではBosniakIVの腎嚢胞性腫瘤と診断し、ミニマム創左腎摘除術を施行した。病理学的にsynaptophysin陽性、CD56陽性細胞を認め、Neuroendocrine tumorと診断した。胸腹部CT、上・下部消化管内視鏡検査で原発巣を認めず、腫瘍は腎原発と判断した。今回、比較的まれな腎原発神経内分泌腫瘍の一例を経験したため文献的考察を加え報告する。

4. リンパ節転移から下大静脈内腫瘍塞栓を認めた腎癌の1例

信州大学
加賀美慧帆、皆川倫範、中沢昌樹、松高 淳、齊藤徹一、鈴木都史郎、道面尚久

66歳男性。肉眼的血尿を認めた右腎腫瘍で、術前評価では下大静脈前面にリンパ節転移を認めていた。また、右精索静脈に小さな腫瘍塞栓を認めていたので、根治的右腎摘除術及び血管内腫瘍塞栓除去術を予定した。術中に超音波検査で観察したところ、リンパ節転移から下大静脈内に腫瘍塞栓を認めた。リンパ節の除去は不能であったが、腫瘍塞栓の除去を行った。リンパ節からの静脈腫瘍塞栓は稀で、若干の文献的考察を加えて報告する。

5. 腎 Mucinous tubular and spindle cell carcinoma (MTSCC) の 1 例

新潟県立がんセンター新潟病院泌尿器科¹⁾ 病理診断科 川崎 隆²⁾

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科³⁾

石川晶子¹⁾、斎藤俊弘¹⁾、武田啓介¹⁾、小林和博¹⁾、谷川俊貴¹⁾、川崎 隆²⁾、山崎裕幸³⁾

患者は 73 歳の女性。左腎腫瘍の精査加療目的に当科を紹介された。CT、MRI で左腎に弱い造影効果を示す 37mm の充実性腫瘍を認め、腎細胞癌の診断で左腎部分切除術を施行した。摘出標本の病理検査では、乳頭状に増生し間質に粘液を伴う腫瘍を認め、免疫染色と併せて MTSCC と診断した。MTSCC は、2004 年の WHO 分類で新たに提唱された、比較的稀な腎細胞癌の組織型である。本例につき考察を加え報告する。

14 : 55 ~ 15 : 45

座長 瀧澤 逸大 (新潟大学)

6. 異所性 ACTH 産生褐色細胞腫と診断された両側副腎腫瘍の 1 例

山梨大学

深沢 正成、青木 正、井原 達矢、吉良 聡、宮本 達也、澤田 智史、三井 貴彦、座光寺 秀典、武田 正之

症例は 58 歳男性。易疲労感を主訴に近医受診し腹部 CT にて両側副腎腫瘍を認め当院紹介された。画像所見と内分泌学的検査より ACTH 産生褐色細胞腫と診断された。本症例に対して二期的手術の方針とし、まず腫瘍径が大きく MIBG シンチで集積の強い右側に腹腔鏡下副腎摘除術を行い、10 ヶ月後に対側の腹腔鏡下副腎部分切除術を施行した。両側とも ACTH 陽性細胞を含む褐色細胞腫の病理診断であった。本邦初となる両側異所性 ACTH 産生褐色細胞腫について文献的考察を加え報告する。

7. 右尿管結石合併下大静脈後尿管に対し腹腔鏡下に尿管剥離、結石摘出、尿管尿管吻合を施行した 1 例

山梨大学

相川純輝、宮本達也、澤田智史、青木正、吉良聡、三井貴彦、座光寺秀典、武田正之

患者は 61 歳女性。慢性関節リウマチのためステロイド治療を受けていた。右側腹部痛を主訴に近医受診し腹部 CT で下大静脈後尿管に合併した尿管結石と診断された。腎盂腎炎を併発していたため腎瘻造設されたが、数回の ESWL 治療も奏功せず約 2 年間腎瘻管理となっていた。腎瘻抜去を希望し当科紹介され、腹腔鏡下右尿管剥離、尿管尿管吻合と同時に結石摘出を施行後腎瘻抜去された。術中留置した尿管ステント抜去後も水腎症増悪や腎盂腎炎の合併もなく現在まで経過良好である。

8. 精索多形性脂肪肉腫の 1 例

山梨県立中央病院

後藤正博、相川純輝、山岸貴裕、横山 仁、保坂恭子

75 歳男性。20 年前に右鼠径部腫瘍を指摘されて以降増大傾向なく経過観察されていたが腫瘍が増大したため当科受診した。MRI 検査で精索脂肪肉腫が疑われたため腫瘍摘除術を施行した。腫瘍は精索多形性脂肪肉腫であった。現在術後 9 か月再発なく経過している。精索多形性脂肪肉腫は稀な病理組織型であり文献の考察を加え報告する。

9. 右副腎癌が疑われた異所性肝細胞癌の1例

長野市民病院

下島雄治、塩崎政史、山本哲平、小口智彦、飯島和芳、加藤晴朗

症例は70歳男性。2015年12月に骨折の評価のCTにて偶然右副腎癌及び盲腸癌が疑われた。当院外科と右副腎摘除及び回盲部切除を施行した。病理組織検査では右副腎の異所性肝細胞癌であった。盲腸は腺腫であった。副腎原発の異所性肝細胞癌は非常に稀であり、本邦での報告は2例目である。文献的考察を加え報告する。

10. 膣閉鎖術後の再発子宮脱に対する子宮摘除術・経膣メッシュ手術の経験

北アルプス医療センターあづみ病院泌尿器科・女性骨盤底センター
常見浩司、平林直樹、西澤 理、矢花由佳

膣閉鎖術後の子宮脱の再発に対し、膣式子宮摘除術と膣式メッシュ手術により治癒しえた1例を経験した。症例は71歳女性。完全子宮脱に対して近医産婦人科にて膣閉鎖術を受けたが、術後1ヶ月で膣口外に臓器の脱出がみられ紹介となった。膣閉鎖術後の再発子宮脱の術前診断で、手術室にて膣前壁・後壁の縫合部の右側から子宮脱が再発していることが判明し、膣式子宮摘除術と経膣メッシュ手術を行った。

[休憩 15:45~16:00]

16:00~17:00

座長 平形 志朗 (信州大学)

11. 膣への異所性尿管開口を伴う逆Y字尿管の経験

山梨大学

志村 寛史、青木 正、三井 貴彦、武田 正之

逆Y字尿管は極めて稀な先天異常であり、その中でも一端が膣に開口するのは数例しか報告がない。今回我々は、そのような症例でかつ同側腎摘除後にも関わらず膀胱尿管逆流のために尿失禁が持続した例を経験した。本症例のように腎摘後に逆Y字尿管を介して膀胱尿管逆流による尿失禁が持続した症例は文献上報告がなく、稀な症例ではあるものの、このようなケースでは逆Y字尿管の可能性も考慮する必要があると考えられた。

12. 膀胱腫瘍と鑑別を要した小児難治性膀胱炎の1例

長岡赤十字病院 泌尿器科

池田正博、鈴木一也、米山健志

【症例】4歳男児

前医小児科で鼻炎、喘息の治療中に肉眼的血尿と膀胱刺激症状が出現した。膀胱炎として加療されるも改善なく、エコーでは膀胱右壁に局限する壁肥厚を認めた。保存的に加療したが、増悪を認めたため経尿道的膀胱生検を施行。病理では炎症性変化のみで悪性所見は認めなかった。アレルギーによる病態と考えシプロヘプタジンを投与したところ膀胱刺激症状や膀胱壁肥厚は改善した。若干の文献的考察を加え報告する。

13. 当院における褐色細胞腫に対する腹腔鏡下手術の経験

諏訪赤十字病院¹⁾、信州大学²⁾
清河英雄¹⁾、栗崎功己¹⁾、石塚 修²⁾

2008年4月21日より2015年10月26日までに腹腔鏡下副腎全摘除術を13例施行した。
この内、褐色細胞腫は5例であった。当院での経験をまとめてみた。

14. 左尿管下端部癌膀胱浸潤症例に対する腹腔鏡下左腎尿管全摘除膀胱全摘除術、自排尿型 代用膀胱造設術の経験

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科

星井達彦 西山勉

左尿管下端部癌膀胱浸潤の73歳女性に対して、GC療法後に腹腔鏡下左腎尿管全摘除 膀胱全摘除術を行なった。下腹部の左腎尿管膀胱摘出部から終末回腸を45cm遊離し、Studer式代用膀胱を造設し、腹腔鏡下で代用膀胱尿道吻合を行った。手術時間は10時間で術後は特別な事象を認めず退院した。現在、術後4か月経過で尿失禁を認めるが、自排尿で尿路管理を行っている。再発は認めていない。

15. 当院ロボット支援前立腺全摘術の病理学的浸潤 (RM1) と PSA 再発の検討

新潟県済生会三条病院 泌尿器科¹⁾ 三条りゅうクリニック²⁾
新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学分野³⁾

井上 千尋¹⁾、金子 公亮¹⁾、郷 秀人¹⁾、渡邊 竜助²⁾、味岡 洋一³⁾、加藤 卓³⁾

当院では2012年5月から2015年12月までに185例のロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術 (RALP) を施行している。ロボットの導入による術野の視認性の向上したことで患者の術後QOL (失禁や勃起障害など) も向上している。今回、癌の根治性におけるロボット支援手術の有用性を考察するため、当院RALP施行例の病理組織学的浸潤 (RM1) とPSA再発について検討を行った。

16. 当院で実施した手術見学会について

済生会新潟第二病院泌尿器科
吉水 敦、車田 茂徳

当院は、DPCのデータによる手術件数でPNLが7年連続2位以内、HoLEPは7年連続4位以内と両手術において日本有数のhigh volume centerであり、どちらも吉水が考案した独自の術式を採用している。その手術手技の普及を図るだけでなく他の実力ある病院と交流しより質の高い医療を提供することを目的として、当院では今までにHoLEPは2回・PNLは3回の手術見学会を開催してきた。今回、当院で開催したそれらの見学会の実績について報告する。

[休憩 17:00~17:15]

日本泌尿器科学会甲信越合同学術大会

(第378回新潟地方会、山梨地方会、信州地方会)

共催セミナー

日時 2016年6月11日(土) 17:15~18:45

会場 パストラル長岡 「末広の間」

新潟県長岡市今朝日2-7-25

セミナー①

17:15~18:00

座長 **石塚 修 先生**

信州大学医学部 泌尿器科学教室 教授

「新規ホルモン剤を再考する
~見えてきたCYP17阻害剤の新たな価値~」

演者 **舩森 直哉 先生**

札幌医科大学医学部 泌尿器科学講座 教授

セミナー②

18:00~18:45

座長 **武田 正之 先生**

山梨大学大学院総合研究部 泌尿器科学講座 教授

「進行性尿路上皮癌に対する
新規治療法の確立に向けて」

演者 **小原 航 先生**

岩手医科大学医学部 泌尿器科学講座 教授

共催

日本泌尿器科学会甲信越合同学術大会

ヤンセンファーマ株式会社 / アストラゼネカ株式会社

Janssen
PHARMACEUTICAL COMPANIES
OF Johnson & Johnson

ヤンセンファーマ株式会社

AstraZeneca

アストラゼネカ株式会社